

令和4年度の活動計画(案)

令和4年度の年間スケジュール（案）

No.	取組み	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	危機管理に係る事項	第1回幹事会(4/28)	協議会(5/23)						第2回幹事会(予定)				
2	防災業務計画や地域防災計画の共有			各機関からの意見・要望により対応									
3	防災訓練の実施	事前説明会(5/27)		合同防災訓練(6/17)									
4	防災意識向上に関する活動								防災講演会(予定)				
										ワークショップ(予定)			
5	連携マニュアル(案)の更新			訓練の結果や協議会・幹事会での意見、更新の意見により対応									
6	その他活動		勉強会(5/27)										
		事前学習: 第1回							事前学習: 第2回				

1. 危機管理に係る事項 協議会・幹事会

第1回幹事会

- ・ 時期 4月28日（木）10:00～11:00
- ・ 内容
 1. 令和3年度の活動報告
 2. 令和4年度の活動計画（案）について
 - ・ 上記について説明を行い、了解を得た。
 3. 確認事項
 - ・ **防災講演会**は「近年の大規模土砂災害対応経験者による講演」の内容で、出水期内にWEBまたは講演内容を録画したDVD配布を行うことで了解を得た。
- ・ 会議方法 WEBで実施

1. 危機管理に係る事項 協議会・幹事会

連絡協議会

- ・ 時期 5月23日（月）10:00～11:30
- ・ 内容 令和3年度の活動報告、令和4年度の活動計画(案)について
- ・ 会議方法 WEB

第2回幹事会

- ・ 時期 令和4年11月～令和5年2月頃を予定
- ・ 内容 令和4年度の活動報告、令和5年度の活動計画(案)について
- ・ 会議方法 WEB、対面

2. 防災業務計画や地域防災計画の共有

適宜、協議会・幹事会に諮る

※改訂等の際に関係機関で共有する事例があれば適宜、協議会・幹事会に諮る方針です。

3. 防災訓練の実施 合同防災訓練（案）

令和4年度はwebにより、関係機関の防災担当者が合同で、以下を目的にした訓練を実施する。

- ① 関係者の「顔の見える関係」を維持し、知識醸成(防災対応能力の向上)を図る。
- ② 大規模土砂災害時における連携マニュアルに基づく関係機関の情報共有対応の確認・検証を行う。

合同防災訓練日時・場所

- ・ 日時：令和4年6月17日（金）13：30～16：00
- ・ 場所：各機関の会議室等（Web会議方式）
 ※5月27日（金）13～16時に、事前説明会
 （ステージ0の学習型訓練、勉強会 含む）を実施予定

訓練参加機関

高山市、飛騨市、白川村
岐阜県 防災課、砂防課、飛騨県事務所、古川土木事務所、高山土木事務所、飛騨農林事務所
林野庁 飛騨森林管理署
国土省 高山国道事務所、神通川水系砂防事務所

想定する大規模災害現象

想定する災害は台風接近に伴う豪雨
 ⇒豪雨に伴い下記の土砂災害が発生
 ①河道閉塞(高山市) ②大規模地すべり(飛騨市) ③集落孤立(白川村)



訓練項目（事前説明会時）

ステージ0 気象状況に伴う危機管理体制構築・警戒避難対応

訓練項目（合同防災訓練時）

ステージ1 土砂災害発生・初動対応ステージ
 ⇒ホットラインによる情報共有、土砂災害覚知後の対応

ステージ2 国交省の市村、岐阜県への支援対応(TEC-FORCE)

ステージ3 連絡調整会議(現地対策本部)
 ⇒土砂災害緊急情報の事前説明等

訓練方式（学習型、ロールプレイング）の実施イメージ

学習型形式（Web会議）

スクリーンと配布資料で状況付与
 ファシリテーター 画面を通じて状況付与し想定される対応等を質問



プレイヤー 想定される対応等を口頭で回答

ロールプレイング形式（Web会議）

- ・ ホットライン（3首長、古川土木事務所長、神通川水系砂防事務所長を予定）
- ・ 連絡調整会議（連絡協議会幹事を予定）



プレイヤー（国・県・市村等） 各段階で必要な事項を共有・伝達・調整

3. 防災訓練の実施 大規模土砂災害を想定した合同防災訓練シナリオ(案)

■合同防災訓練について

令和4年度の訓練では、**高山市長、飛騨市長、白川村長、古川土木事務所長**に、ご参加いただき、ホットライン（「大規模土砂災害の発生情報に関する共有・伝達等」）の実演を行うロールプレイング形式の訓練を予定している。ご参加の首長様、所長様方には、合同防災訓練のうち**13:30～14:25**の間はご出席頂きますようお願いいたします。

時間	主な付与状況	訓練目的、質問・実演の対象機関および対象者
13:30～		開会挨拶（高山市長）、訓練の進め方の確認（事務局）
■ステージ1-1（ロールプレイング形式）：豪雨に伴う土砂災害発生覚知情報等の共有・伝達（ホットライン①）		首長参加 10分間
13:40～	【状況1】 ◆土砂災害発生後の初動対応（避難指示等の発令）	【高山市長、飛騨市長、白川村長、神通川水系砂防事務所長・実演】 ①神通川水系砂防事務所長から首長へのホットラインを活用して大規模土砂災害発生の可能性について情報伝達を行うこと。
■ステージ1-2（学習型形式）：豪雨に伴う土砂災害対応（河道閉塞・地すべり対応）		首長参加 15分間
13:50～	【状況2】 ◆大規模な河道閉塞及び地すべりの現地状況を確認。	～河道閉塞に関する対応～【高山市、神通川水系砂防事務所・質問】 ～地すべりに関する対応～【飛騨市、岐阜県砂防課、古川土木事務所・質問】 ①河道閉塞、地すべり等の情報を適切に収集・伝達し、連携体制構築などの情報共有を行うこと。 ②必要な調査、検討を漏れなく行い、緊急調査実施の判断を適切に行うこと。
■ステージ1-3（ロールプレイング形式）：土砂災害発生情報等の共有・伝達（ホットライン②）		首長参加 20分間
14:05～	【状況3】 ◆大規模な河道閉塞及び地すべりの現地状況を踏まえた対応	【高山市長、飛騨市長、白川村長、古川土木事務所長、神通川水系砂防事務所長・実演】 ①神通川水系砂防事務所長から河道閉塞（天然ダム）に関する情報共有、必要な助言対応を行うこと。 ②古川土木事務所長から大規模地すべりの兆候に関する情報共有、必要な助言対応を行うこと。 ③同時多発的土砂災害（土石流、がけ崩れ）に関する情報共有、必要な助言対応を行うこと。 ※終了後3首長退出
■ステージ1-4（学習型形式）：豪雨に伴う土砂災害対応（道路途絶・保安林、国有林被害対応）		15分間
14:25～	【状況4】 ◆道路途絶、国有林被害の現地状況を確認。	【白川村、高山土木事務所、飛騨農林事務所、高山国道事務所、飛騨森林管理署・質問】 ①土砂災害の情報を適切に収集・伝達し、情報共有を行うこと。 ②必要な調査、検討を漏れなく行うこと。
休憩（14:40～14:50）		
■ステージ2（学習型形式）：国交省の市村、岐阜県への支援対応（TEC-FORCEによる支援）		10分間
14:50～	【状況5】 ◆災害発生を受け、国土交通省がTEC-FORCE派遣を決定。	【高山市、岐阜県防災課、神通川水系砂防事務所・質問】 ①TEC-FORCEの派遣・受入を適切に行うこと。 ②TEC-FORCEとの連携対応（情報提供、物的支援、助言等）を適切に行うこと。
■ステージ3（ロールプレイング形式）：連絡調整会議（現地対策本部）		30分間
15:00～	【状況6】 ◆各機関で土砂災害への対応を実施中。適切な連絡調整が求められる。	【参加機関・神通砂防の幹事による進行実演】 ①連絡調整会議において、土砂災害の発生状況、被害状況等が共有し、土砂災害緊急情報発出の事前調整が行われること。 ②監視・観測体制等に関する説明を適切に行い、必要な連絡・調整が会議の中で行われること。 ※緊急調査結果や土砂災害緊急情報（案）は状況付与資料として提供
15:30～ 16:00	参加者によるふりかえり（課題の発表）、講評（事務局）、閉会挨拶（神通川水系砂防事務所所長）	

4. 防災意識向上に関する活動 住民の防災意識向上の取り組み

- ①地域で発生する通常の土砂災害に加え、大規模土砂災害の危険性を知る。
- ②避難を行うための情報の種類・内容について知り、入手方法も知る。
- ③地域の避難ルールを作る。

ことを目的としたワークショップ（WS）を開催します。

開催にあたっては、高山市、古川土木事務所にも参加をお願い致します。

※日程が確定次第、各機関に日程のご連絡をいたします。

WS開催支援（1回）



○講習会：講師による勉強会
住民の通常の土砂災害及び大規模土砂災害のリスクに関する認識、理解度の向上

WS開催支援（2回）



○講習会：災害経験者の談話等
○話し合う内容（予定）
1. 身近に感じる危ないこと
2. 避難する理由や避難しない理由
3. 避難のきっかけとなる情報
4. 避難ルールについて
（まちあるきで確認するなど）

WS開催支援（3回）



○話し合う内容（予定）
1. 第2回の結果の取りまとめ
（例えば地区防災計画の案など）
2. 大規模土砂災害リスクのまとめ
（例えばハザードマップ）
3. 避難情報の収集判断基準のまとめ
4. 避難ルール（避難行動計画）
5. 上記成果の使い方、継続的な避難訓練などの計画策定

令和4年度を予定

第1回のワークショップ（WS）実施状況により、
第2回以降の予定を適宜変更する

4. 防災意識向上に関する活動 防災講演会

防災講演会

- ・ 内容：近年の大規模土砂災害対応経験者（平成30年7月豪雨等）を講師とした講演会(課題・教訓、実効性のある警戒避難対応等)
- ・ 時期：出水期内を予定
- ・ 実施方法 WEB、DVD配布を予定

	講演①	講演②	講演③
演題	実効性のある避難を確保する為の土砂災害対策について	平成29年7月九州北部豪雨と朝倉市の対応について	防災・減災に役立つ地理空間情報について
講師	 <p>国土交通省 水管理・国土保全局 砂防計画課 地震・火山砂防室 瀧口 茂隆</p>	 <p>朝倉市 復興調整官 恒吉 徹</p>	 <p>国土地理院北陸地方測量部 防災情報管理官 横川 薫</p>
内容	<p>1.平成30年7月豪雨の特徴と防災対応の検証</p> <p>2.実効性のある避難を確保するための土砂災害対策</p>	<p>1.朝倉市の位置と概要 2.豪雨災害の特徴</p> <p>3.災害対応の初動 4.災害復旧事業</p> <p>5.復旧・復興計画作りとマネジメント</p> <p>6.避難基準の見直し</p> <p>7.自主防災マップの作成</p> <p>8.出水期前一斉点検</p> <p>9.生活再建、災害復旧の現状</p> <p>10.おわりに</p>	<p>活断層図の概要</p> <p>1.経緯 2.位置け</p> <p>3.調査方法 4.整備状況</p> <p>5.利活用 6.観覧・入手</p> <p>防災に役立つ地理院地図の例</p> <p>7.治水地形分類図</p> <p>8.自分で作る識別標高図</p> <p>9.断面図作成機能</p>

令和元年度に実施した講演会の例

5. 連携マニュアルの更新

今後も適宜更新を行う

- ※訓練の結果や協議会・幹事会での意見を踏まえ、更新の必要がある場合
- ※記載内容について更新の意見・要望がある場合

6. その他の活動 勉強会

勉強会

- ・ 時期 5月27日(金)13:00~16:00
(上記の時間で、事前説明会と併せて同日で実施)
- ・ 内容：近年の大規模土砂災害事例
 - ：土砂災害防止法に基づく緊急調査・緊急情報
 - ：大規模土砂災害時の支援（リエゾン、TEC-FORCE） 等
- ・ 実施方法 WEB

6. その他の活動 事前学習

昨年度のアンケート結果をふまえた令和4年度の活動計画について、昨年度の第2回幹事会で意見照会を行い、了承を得た。令和4年度は以下の活動を行います。

期間 合同防災訓練の前後各1回を予定

第1回：5月中旬～6月中旬

第2回：7月下旬～8月下旬

方式：webサイト（学びばこ）を用いた学習ツールを活用し、協議会構成員が所属組織の自席にて危機管理対応について学習

問題形式：択一形式

（設問⇒解答および解説で1セット）

学習時間：30分～1時間程度/1回

問題数：20問

学習内容：連携マニュアルに関連する内容、土砂災害に関する基礎知識など

神通川・庄川上流域における大規模土砂災害

土砂災害学習 土砂災害学習（試行）

土砂災害学習（試行）

回答の参考になる説明文がありますので、参考にしてください。

一時保存

*イラストが表示されている場合はクリックすると拡大表示されます。

*全問終了後に下の採点ボタンを押して下さい。

問題数 20 合格点数 0

No.	テスト内容
1	<p>●連携マニュアルの役割</p> <p>土砂災害は、発生する場所やその規模をあらかじめ精度よく予測することが難しい事象です。また、大規模な土砂災害が発生した場合、その被害は激甚となり社会的な影響も大きく、市町村単独あるいは都道府県単独での対応が非常に困難な状況となる場合が想定されます。そのため土砂災害発生時には、関係機関が実施すべき対応を互いに十分把握し、早期に連携を図りながら効果的・効率的に対応していく必要があります。このような状況を踏まえ、神通川・庄川上流域大規模土砂災害対策協議会では、各機関が連携して対応するための基本的な事項を整理してとりまとめた「大規模土砂災害時における連携マニュアル」を作成しています。</p> <p>3つの選択肢の中から、「誤っているもの」を1つ選択してください。</p> <p>○1. 連携マニュアルは発生後、大雨や地震に起因する大規模な土砂災害等が発生、重複して災害対応を行う必要がある場合に適用する。</p> <p>○2. 大規模土砂災害は、発生型と進行型に大別されるが、土石流と崩壊は進行型の災害である。</p> <p>○3. 連携マニュアルの参考資料である大規模土砂災害タイムラインとは、災害発生時に入ってくる情報と自機関の対応行動、対応後の情報伝達等をリスト化したものである。</p>

●防災関係機関相互の連携体制

防災関係機関は、自らの地域防災計画、防災業務計画に基づき、様々な手段によって、災害情報等を入力していますが、土砂災害に対して効率的、かつ的確な災害対応を実施するためには、発災後の時間経過に応じて、それぞれが得た災害情報を防災関係機関間で共有し、これを有効活用することが重要です。

学習ツール